

## ▼ゴナトロピン筋注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】胎盤性性腺刺激ホルモン (U) chorionic gonadotrophin 【分類】注射用胎盤性性腺刺激ホルモン

【単位】▼1000・▼3000 単位A

【常用量】1回 300～5000 単位

【用法】生食 1～2mL で溶解し筋注

【透析患者への投与方法】透析患者の投与方法に言及した文献なし (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】腎不全患者の投与方法に言及した文献なし (5)

【特徴】構造が LH と極めて類似しており、作用も LH 作用が主で、女性に対しては黄体形成、維持作用、卵胞成熟作用を持ち妊娠黄体の機能不全に作用し、黄体機能を回復させる。男性に対しては間質細胞刺激作用を有し、睾丸間質細胞を刺激し、男性ホルモンを分泌させ、副性腺の発育、性欲の発現を促す。泌尿器科領域では男子不妊症、停留睾丸等に用いる

【主な副作用・毒性】ショック、卵巣過剰刺激症候群、めまい、投与部位疼痛など

【モニターすべき項目】排卵誘発：血清エストラジオール濃度、エコー検査、日々の基礎体温、血清プロゲステロン濃度、男子不妊症：血清テストステロン濃度、精子数、精子運動性

男子思春期遅発症：血清テストステロン濃度

【排泄】尿中未変化体排泄率 10～12% [24hr まで] (U)

【t1/2】11hr, 23hr の 2 相性 (U)

【TDM のポイント】TDM の対象にはならない

【最大効果発現時間】女性：通常、投与後 32～36hr に排卵誘発される。

【更新日】20140826

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。